

つくる人を幸せに、食べる人を笑顔に



ゆめぴりか生産者 FILE

2020

米づくり

に挑む

生産者



今日も、
明日も、
その先も。

北海道を米どころ日本一へ。

どんなことにも負けずに挑み続け、品質と信頼を守る

令和元年は7月下旬から8月にかけて気温が高く、8月中旬から降雨が続くなど、高品質な米づくりには困難な状況が続きました。しかし、そんな中でもさまざまな努力と工夫により、基準品「ゆめぴりか」(タンパク値7.4%以下)の安定生産に挑み続けている生産者の方々がいらっしゃいます。

この冊子では「ゆめぴりか」に対する期待と信頼を守る10名の生産者のみなさんをご紹介します。困難に負けずに挑み続ける姿勢と、そのノウハウの一端をお伝えします。

index

No.01

森町
小原 三弘さん



No.02

共和町
駒形 貴之さん



No.03

平取町
奥村 俊也さん



No.04

当別町
佐々木 健児さん



No.05

奈井江町
杉本 雄馬さん



●ほ場の選定

「ゆめぴりか」はタンパク質含有率が低くなりにくい品種です。タンパク質含有率が高くなるほ場への作付けは避けましょう。

●適切な施肥管理

タンパク質含有率を制御するためには、施肥管理が基本です。収量より品質を重視した施肥管理を心がけましょう。

●登熟気温を確保する

登熟気温が高いほどアミロース含有率は低下します。登熟気温を確保するために健苗を適期に移植しましょう。

●前歴期間～冷害危険期の深水管理を徹底する

「ゆめぴりか」は耐冷性が不十分です。前歴期間～冷害危険期の深水管理を徹底しましょう。

●適期収穫を心がける

刈り遅れにより玄米品質が低下します。適期収穫を心がけましょう。

※これまでの良食味米生産技術が基本となります。

平成 25 年 3 月発行「ゆめぴりか」栽培マニュアルより抜粋。

No.06

深川市
山田 憲明さん



No.07

栗山町
南坂 明憲さん



No.08

増毛町
木谷 辰彦さん



No.09

愛別町
鉛口 裕二さん



No.10

旭川市
黄木 高善さん



No.01

森町 小原 三弘さん



受け継いだブランド の火を絶やさない

道南の中でも冷涼な駒ヶ岳地区。土地に合った「ゆめぴりか」を、地域の生産者が試行錯誤し育ててきました。

眼前に駒ヶ岳を望む、小原三弘さんの水田。山間地域で標高が高いため、同じ道南でも温暖な北斗市や七飯町とは違い、冷涼な気候です。森町内でも、駒ヶ岳地区は火山性土壌、濁川地区は泥炭地と、土質が異なります。小原さんは、父の代から駒ヶ岳地区で「ゆめぴりか」の試験栽培に携わり、基準品を出荷し続けています。

道南のブランド米と言えば、平成15年か

”
自分たちの地区でブランド米を
“

●小原さんの POINT1

駒ヶ岳地区は透排水性の高い火山性土壌。そのままでは水が抜けてしまうので、代掻きを2回行い、水持ちが良くなるよう調整しています。

” 土地に合うもの、合う栽培方法で “

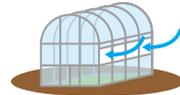
ら栽培を開始した「ふっくりんこ」が有名ですが、晩生の「ふっくりんこ」は気温の低い森町では思うように収穫できませんでした。小原さんの父、浩吾さんが中心となり、「森町でもブランド米を」とJAに掛け合い、その時試験栽培が始まっていた「ゆめぴりか」を植えてみることに。見事にタンパク値6.3%ほどの米がとれ、翌年から森町に広がっていきました。出荷が始まった当初は気候条件が悪く厳しい年が続きましたが、地域の仲間と協力し合い、試行錯誤しながら育てていったのです。

駒ヶ岳地区は若い生産者が少ないため、将来的に地域で米をつくり続けるためにも、低タンパク米を出して地域の励みにしていきたいと小原さん。「良い米がつかれる施肥管理や水管理も、父の長年の経験の成果」と敬い、技術を受け継ごうと目下、奮闘しています。浩吾さんのアドバイスは、「稲をよく見ること」。紆余曲折の末にたどり着いた、その土地に合う栽培方法が、地域のブランドを支えています。



●小原さんの POINT2

雪解け前にケイ酸石灰肥料を投入。肥料としての効果と共に、黒い色が太陽光を集めるため融雪材代わりになり、土を早く乾かせます。



●小原さんの POINT3

年々、春先の平均気温が高くなっているため、苗の温度管理はシビア。こまめにハウスを開け、苗が伸びすぎないようにしています。



●小原さんの POINT4

基肥をどこまで減らすかがポイント。森町の生産者が毎年集まり、肥料メーカーの担当者などを呼び、講習会を開いて改善しています。

DATA 小原さんの基礎情報 (令和元年産)

DATA1 | 土づくりと透排水性改善 (kg/10a)

| | |
|----------|-----------|
| 稲わらの処理方法 | 搬出 |
| 土壤改良資材 | 粒状ケイカル 60 |

DATA3 | 作付面積 (ha)

| | |
|-------|-------|
| ゆめぴりか | ななつぼし |
| 3.2 | 4.3 |

DATA2 | 施肥量・施肥法 (kg/10a)

| | | | |
|----|-----|-----|------|
| 基肥 | 窒素 | リン酸 | カリウム |
| 全層 | 7.0 | 8.5 | 18.0 |
| 側条 | 2.4 | 3.0 | 3.0 |

DATA4 | 育苗・移植

| | | |
|------|----------------------|---------|
| 育苗形式 | 中苗マット | |
| 移植時期 | 5/24 ~ 5/27 | |
| 栽植密度 | 畦幅×株間 (cm) | 33 × 11 |
| | m ² 当たり株数 | 27.5 |

No.02

共和町 駒形 貴之さん



手間と時間をかけた 高品質の米づくり

きょうわ米麦生産組合の駒形貴之組合長は米農家の5代目。土づくりや草刈りなど、代々受け継ぐ技術があります。

”
田んぼを乾かしてから起こす
“

駒形さんは毎年3月、融雪材代わりにケイ酸質資材を水田に散布しています。「4月にはメロンの準備も始まるので、早めに雪を解かして田んぼを乾かしてから起こしたい」というのがその理由。「ゆめぴりか」の場合は我が家の一等地の水田を選び、草丈が大きくなって倒伏しないように基肥は10a当たり60kg程度に抑えています。

6月下旬には「田んぼが湧いたら、水をいっ



●駒形さんのPOINT1

「ゆめぴりか」については川沿いの沖積土の水田を選択。良食味になりやすい、地力の少ない土地を選んで作付けしています。

“ 稲わらを鋤込んでしまします ”

” コンバインを追いかけるように ”

たん抜いて中干しすることもある」と駒形さん。「田んぼが湧く」とは、稲わらの腐熟の過程で稲の根が酸欠になる状態。水田を乾かしてから、新しい水を入れて酸素を供給します。

基本的な技術ですが、幼穂形成期の深水管理もやはり重要。「1穂籾数が少ないと1粒当たりの籾に肥料が集中して吸収されるので、タンパク値が上がってしまう。深水管理により過剰な分けつや遅れ穂を抑制し、適正な籾数を確保することが肝心」だからです。共和町の防除はJAがヘリで一斉に行いますが、駒形さんは年に3回、独自に草刈りをして水田をキレイに保つことも忘れません。

収穫はきょうわ米麦改良協会が判定会を数回行って、適期を判断します。駒形家ではメロンの出荷が一段落したあと、息子さんがコンバインで収穫し、後ろから駒形さんが追いかけるように稲わらを鋤込む作業を5～6年続けています。加えて秋のうちに畦塗りも実施。「ネズミが穴だらけにするので、水持ちを良くするために畦塗りしています」と駒形さん。乾燥や粳すりも自家で行っています。

DATA 駒形さんの基礎情報（令和元年産）

DATA1 | 土づくりと透排水性改善 (kg/10a)

| | |
|----------|-----------|
| 稲わらの処理方法 | 秋鋤込み |
| 土壤改良資材 | とれ太郎 P 60 |

※透排水性改善のため心土破碎を実施。

DATA2 | 施肥量・施肥法 (kg/10a)

| | | | |
|----|-----|-----|------|
| 基肥 | 窒素 | リン酸 | カリウム |
| 全層 | 8.4 | 9.0 | 6.0 |

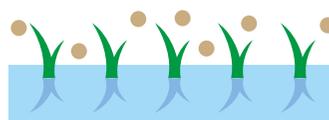
※ワイドユース 450 (60kg/10 a) 使用。

DATA3 | 作付面積 (ha)

| | |
|-------|-------|
| ゆめぴりか | ななつぼし |
| 2.7 | 4.3 |

DATA4 | 育苗・移植

| | | |
|------|----------------------|---------|
| 育苗形式 | 中苗マット | |
| 移植時期 | 5/20～5/23 | |
| 栽植密度 | 畦幅×株間 (cm) | 33×10.7 |
| | m ² 当たり株数 | 28.3 |



●駒形さんの POINT2
肥料をやりすぎると、草丈が伸びて倒伏してしまいがち。基肥を余分にやらないように気をつけています。



●駒形さんの POINT3
稲わらは収穫直後に鋤込み、気温の高いうちに腐熟を促進させます。さらに、水持ちが良くなるよう、秋のうちに畦塗りをします。



●駒形さんの POINT4
毎年3月、クローラのトラクターで雪の上にケイカルを散布。融雪を促すとともにケイ酸質資材を供給する作業を長年続けています。

No.03

平取町 奥村 俊也さん



大切なのは「乾く水田」 をつくること

第2回「ゆめぴりか」コンテスト
で最高金賞を受賞したJA びらと
り。びらとり米麦改良協会の奥村
さんが考えるポイントとは。

奥村さんの水田は、自宅から車で約5分。
林の中にあり、鹿よけの電気柵にぐるりと囲
まれています。令和元年は平年並みの収量で、
タンパク値は6.8%程度だったという奥村さ
ん。米づくりで気をつけているのは「水田を
乾かすこと」だそうです。ロールベラー
で稲わらを水田から出す作業を15年ほど継
続。「他のトマト農家にわけたり、自分で
堆肥化してトマトのハウスに使っています。



●奥村さんの POINT1

収穫後の稲わらはロールベラー
を使って水田から出しています。
水田がぐちゃぐちゃにならず、春
でも短靴で入れます。



DATA1 | 土づくりと透排水性改善（kg/10a）

| | |
|----------|-----------|
| 稲わらの処理方法 | 搬出 |
| 土壤改良資材 | 粒状ケイカル 60 |

※透排水性改善のため溝切り（水田の乾きが悪い時のみ）を実施。

DATA2 | 施肥量・施肥法（kg/10a）

| 基肥 | 窒素 | リン酸 | カリウム |
|----|------------|-----|------|
| 全層 | 7.9(4.9)※1 | 9.6 | 9.1 |

※1. 全量特別栽培米に取り組んでいる。（）内は化学肥料窒素施用量。

DATA3 | 作付面積（ha）

| | |
|-------|-------|
| ゆめぴりか | ななつぼし |
| 2.1 | 2.3 |

DATA4 | 育苗・移植

| | | |
|------|----------------------|-------|
| 育苗形式 | 中苗マット | |
| 移植時期 | 5/20～5/23 | |
| 栽植密度 | 畦幅×株間（cm） | 33×12 |
| | m ² 当たり株数 | 25.3 |

”稲わらはロールベアラーで搬出

トマトの堆肥に使っています

おかげで春は長靴じゃなきや歩けなかった水田も、だいぶ乾いてきた」と言います。透排水性が改善するまでは、刈り取り後の溝切りも欠かさず続けてきたそうです。

育苗は自動換気装置の付いたハウスを活用して、適切な温度管理を徹底。追肥は過剰に行わないようにしています。また、春の田起こしの際は土壤改良のため10a当たり60kgのケイ酸質資材を投入しています。

「トマトが経営のメインなので、トマトと水稲がかぶらないよう作業体系を組んで、ムリのない範囲でできるようにしている」と奥村さん。とはいえ水田が自宅から少し離れているため、田植え時期は大変。父親が田植機に乗り、奥村さんが2台の軽トラックで何往復もして苗を運びます。夏場はトマトの管理に集中するため、ヘリコプターやボートによる防除を作業委託するなど省力化も図っています。

3年前から町内10戸の生産者と一緒に特別栽培米に取り組んでおり、安定生産と、さらなる質の向上を目指しています。



●奥村さんの POINT2
透排水性が改善するまで、毎年秋にサブソイラーで溝切りを続けてきました。心土破碎の効果で、根張りがよくなります。



●奥村さんの POINT3
播種から収穫まで、適期を逃さないよう、ムリのない作業体系を計画。経営の柱となるトマトの作業とかぶらないよう工夫します。



●奥村さんの POINT4
育苗は中苗マット。自動換気装置の付いたハウスを活用して、急激な温度変化がないように気をつけ、適期移植に努めています。

No.04

当別町 佐々木 健児さん



良いものを作り続ける姿勢を、次世代へ

恵まれた粘土質の土壌に加え、施肥などにも工夫を重ねながら、良質米の生産にこだわり続けています。

” 試行錯誤の末、たどり着いた ”

石狩平野の肥沃な土壌に恵まれ、稲作を基幹産業としてきたほか、都市近郊型農業として野菜や花卉栽培も盛んな当別町。ここで稲作を営む佐々木健児さんは、「ゆめぴりか」の栽培に初期から取り組み、平成27年から4年連続で「ゆめぴりか良質米生産出荷表彰」を受けています。所有する農地の中でも粘土質の土壌を選び、窒素肥料も抑えてつくったため初めからタンパク値は低くなりましたが、



●佐々木さんの POINT1

農地の中でも粘土質の場所を選んで作付け。水はけ対策として、秋か春にサブソイラーによる心土破碎、お盆前後に溝切りを行っています。

“**施肥、水管理など努力を重ね、
質・量ともに納得できる米を**”

収量が思うように上がりませんでした。その後、有機物配合肥料を与えるなど試行錯誤の末、質・量ともに納得のいくものができるようになりました。「ゆめぴりか」の作付面積の割合も徐々に増やして現在に至ります。

自らを、土地に恵まれたから「ゆめぴりか」をつくれたとし、「誰でもつくれるわけではない、せっかくつくらせていただけるのだから、北海道米を全国の方に知ってもらえるように良いものをつくっていきたい。不作の年こそ諦めずに次も頑張っつづつしています」と、低タンパク米にこだわり続けています。

そんな佐々木さんには、2人の子どもたちという頼もしい助っ人が。どちらも今は学生ですが、繁忙期にはトラクターやダンプカーを操り、貴重な戦力になっています。「妻と話し、子どもたちには楽しく農業をやっている姿を見せるようにしてきました。それで自分からやりたいと思ってくれればいいなど」良い米を懸命につくろうとする姿勢が、次の世代にも着実に伝わっているようです。



●佐々木さんの POINT2
収量とのバランスを考慮しながら窒素肥料を減らすとともに、JAから推奨された土地との相性が良い有機物配合の肥料を与えます。



●佐々木さんの POINT3
稲わらを鋤込む際に、米のタンパク値を下げるとともに稲を丈夫にし登熟が良くなるケイ酸石灰肥料を10a当たり100kg施用しています。



●佐々木さんの POINT4
水温を上げるために止水管理をしています。日照のある日中は水がなくなるまで止めておき、水は夜から早朝に入れます。

DATA 佐々木さんの基礎情報（令和元年産）

DATA1 | 土づくりと透排水性改善 (kg/10a)

| | |
|----------|------------|
| 稲わらの処理方法 | 秋鋤込み |
| 土壌改良資材 | 粒状ケイカル 100 |

※透排水性改善のため心土破碎を実施。

DATA2 | 施肥量・施肥法 (kg/10a)

| 基肥 | 窒素 | リン酸 | カリウム |
|----|-----|-----|------|
| 全層 | 4.8 | 6.0 | 4.0 |
| 側条 | 2.8 | 2.8 | 2.8 |

DATA3 | 作付面積 (ha)

| | | |
|-------|------|--------|
| ゆめぴりか | なつぽし | きらら397 |
| 0.8 | 2.0 | 2.9 |

DATA4 | 育苗・移植

| | | |
|------|----------------------|-------|
| 育苗形式 | 中苗マット | |
| 移植時期 | 5/20～5/22 | |
| 栽植密度 | 畦幅×株間 (cm) | 33×12 |
| | m ² 当たり株数 | 25.3 |



No.05

奈井江町 杉本 雄馬さん



量より質を追い、挑戦し続けて得る成果

JA 新すながわ「ゆめぴりか」生産協議会副会長の杉本さんは米づくりの出発点といえる土壌診断を重視しています。

DATA 杉本さんの基礎情報（令和元年産）

DATA1 | 土づくりと透排水性改善 (kg/10a)

| | |
|----------|--------------|
| 稲わらの処理方法 | 秋鋤込み |
| 土壌改良資材 | ケイカル 100～140 |

DATA2 | 施肥量・施肥法 (kg/10a)

| 基肥 | 窒素 | リン酸 | カリウム |
|----|-----|-----|------|
| 全層 | 3.2 | 3.2 | 2.0 |
| 側条 | 4.4 | 2.6 | 0.7 |

※「ゆめぴりか」は全量特別栽培米（うち高度クリーン2.1ha）に取り組んでいる。

※令和元年産「ゆめぴりか」はほぼ全量タンパク値6.8%以下。※基本技術の励行を基本としている。幼穂形成期前の中干し、幼穂形成期後の中干し、溝切り、ケイ酸質資材の散布を確実に行う。

DATA3 | 作付面積 (ha)

| | |
|-------|---------|
| ゆめぴりか | きらら 397 |
| 12.8 | 7.9 |

DATA4 | 育苗・移植

| | | |
|------|----------------------|-------|
| 育苗形式 | 成苗ポット | |
| 移植時期 | 5/19～5/23 | |
| 栽植密度 | 畦幅×株間 (cm) | 33×13 |
| | m ² 当たり株数 | 23 |

“ タイミングを計ることがポイント ”

タンパク値 6.8%以下の「ゆめぴりか」を毎年安定して生産している杉本さん。天候など、環境の変化に負けず、高い品質を維持し続けるポイントは土壌診断だと言います。「春の土壌診断結果に基づき、施肥量などを守り、指導通りに取り組んでいるだけです。特別なことは何もしていません。強いて挙げると、稲わらの秋鋤込み、そして春は早めの施肥でしょうか。秋鋤込みは、この地域では皆が当たり前に行っていることです」

施肥のタイミングについては「天候など条件次第ですが、田植え時の側条施肥、6月下旬のケイ酸質資材の追肥がポイントとなります。ケイ酸質資材の追肥は倒伏、登熟対策として有効だけでなく、タンパク値を下げる効果も得られます」

また、杉本さんは「特別栽培米」「高度クリーン米」に取り組んでいます。施肥タイミングには、だからこその理由もあると言います。「秋鋤込みや有機肥料は、主に生育後半近くになって効き始めます。それが望まないタイミングで効いてしまうと、間違いなくタンパク値が上がります。効き始め時期を見越した早めの施肥が大切です」

こうした技術面と共に杉本さんは高い意識を持って生産することを大切にしています。「ゆめぴりかは、量より質を追求すべき品種だということ。そして、私たちが培ってきた技術は『良質』を実現するためのもの。この意識と技術は、各地の生産者と共有していけたらと考えています」



●杉本さんの POINT1

「こまめに田んぼに入り、田んぼを見る」を実践。特に経験豊富な先輩たちの指摘や意見は、より実践的なノウハウとして生かされています。



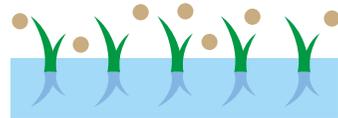
●杉本さんの POINT2

水田の水量や作業タイミングなどは、JA 新すながわに集約・蓄積されているデータを活用。日々スマートフォンで確認しながら最善を探っています。



●杉本さんの POINT3

土壌診断に基づく情報を重視。水田ごとに示される施肥量や施肥タイミングに従いつつ、前年の実績などからプラスアルファを加減します。



●杉本さんの POINT4

「タンパク値が下がらないのは肥料のやりすぎ」ということから、肥料は絞りにしています。収量は上がりませんが、低タンパク米を見込めます。

”
自分らしさを加えて
“

深川市の山田さんは米づくりの難しさを実感しながらも「少しでも良いものをつくりたい」と毎年、新たな試みにチャレンジしています。

「就農から8年経って、発見することが多い毎日です。父がつくって来た良い部分を活かしながら、毎年少しでも良くできることがあればと考え、取り組んでいるところです」

これまで、あたりまえと思ってきた両親の「苗づくり」も、丁寧に管理し労力を惜しま



●山田さんのPOINT1

土壤分析で土地のクセを数値化。その結果に基づいて足りないところを補っています。また秋に稲わらを鋤込み、地力がないところを補います。

No.06

深川市 山田 憲明さん



父から受け継いだ技術 に新しさを加える

大学を卒業後、就農して8年目。深川市の山田さんは多くの仲間
に刺激を受けながら自分らしい
米づくりに取り組んでいます。



消費者からはやる気をもろう

”生産者からは刺激を

ずに取り組むことがいかに重要かを山田さんは理解するようになりました。

「私はまだ雑な部分があるので苗を丁寧につくる父の技術は尊敬しています。ただ、自分が良くしていける部分もあると思います。私が特に重視しているのが土づくり。稲にとっていい環境をつくるため、できることはなんでもやろうと思っています。これまで秋は溝切りだけでしたが、もっと何かできるのではないかと取り組んでいるところです」

まだ若い山田さんは不足する経験と知識を周囲の人たちの助けを得てさまざまなことに取り組み、周囲もそれを応援しています。「さまざまな方の意見を聞くようにしています。もちろん自分でもネットで調べるなど知識と情報の収集は欠かせません」

そんな山田さんと多くの人とのつながりは地域を越えて拡大しています。

「生産者の仲間からは良いものをつくろうという刺激を、消費者からはおいしいものを届けたいというやる気ももらっています」



●山田さんの POINT2

他でつくられた米を食べる機会を増やすことで、自分の米の特徴を知るようにしています。モチベーションアップにもつながります。



●山田さんの POINT3

堆肥や糠、えん麦など有機物を苗床に使用。根を伸ばしてから管理を細かくするなど、苗づくりに は労力をかけます。



●山田さんの POINT4

前年の経験を元に、秋から土づくりを進めていきます。資材を変えた新しい試みにも挑戦。その蓄積が徐々に実を結びつつあります。

DATA 山田さんの基礎情報（令和元年産）

DATA1 | 土づくりと透排水性改善 (kg/10a)

| | |
|----------|-----------|
| 稲わらの処理方法 | 秋鋤込み |
| 土壤改良資材 | とれ太郎 P 50 |

DATA2 | 施肥量・施肥法 (kg/10a)

| | | | |
|----|-----|-----|------|
| 基肥 | 窒素 | リン酸 | カリウム |
| 全層 | 5.0 | 6.2 | 4.1 |
| 側条 | 3.6 | 2.0 | 0.6 |

※全量 Yes! clean 栽培に取り組んでいる。

※平成 29 年産「ゆめびりか」はタンパク値 6.8%以下。

DATA3 | 作付面積 (ha)

| | | |
|-------|-------|--------|
| ゆめびりか | ななつぼし | ふっくりんこ |
| 1.5 | 9.8 | 9.7 |

DATA4 | 育苗・移植

| | | |
|------|----------------------|-------|
| 育苗形式 | 成苗ポット | |
| 移植時期 | 5/15～5/21 | |
| 栽植密度 | 畦幅×株間 (cm) | 33×13 |
| | m ² 当たり株数 | 23.3 |

No.07

栗山町 南坂 明憲さん



「基本」に新しい考えを加え、常に改善する

米づくりの基本を守りながら、わずかでも良い品質へ向けてチャレンジする。栗山町の南坂さんの米づくりは常に前向きです。

●南坂さんの POINT1

肥料や施肥方法を変えて試験栽培を行い、土壌診断を毎年実施。その診断結果から少しでも良いものを翌年の栽培に導入。常に新しい方法に取り組んでいます。

栗山町の南坂さんが「ゆめぴりか」にこだわる原点は「孫がうちの米をうまいって言ってくれる」こと。そして「そんな期待に応えたい」という思いにあります。南坂さんが父から経営を引き継いだ当初は「とにかく収量」という時代。「ゆめぴりか」の栽培が始まった当初も「本当にブランド米なんてできるのか半信半疑だった」と言います。JA や普及センターの職員とも情報交換をし、試行錯誤を続けた結果、高品質の「ゆめぴりか」を収穫できるようになりました。

“うまいという信頼に応える”



“ 前向きな姿勢が米づくりを楽しくする ”

そんな南坂さんが重視するポイントは「作物に働いてもらう環境をつくること」。基本的なことをしっかり押さえながら、基本の中に新しく得た自分の考えを加えています。「自分は作物の手助けをしているだけ。基本はもちろん大切だけど、環境は変わるから守りだけでは進歩がない。作物にいい仕事をしてもらえるように工夫は必要だと思う」

毎年、土壌診断を欠かさず実施。JAと共に試験栽培も行い、さまざまなデータを収集しています。南坂さんはそうしたデータを翌年に活用して常に新しい取り組みを進めるだけでなく、多くの仲間のために情報公開もしています。

「自分が納得できる米づくりを多くの人にしたい。自分が米づくりという仕事を選んだからには、より良いものをつくりたいじゃないですか。失敗することもあるでしょうが、その経験を次に活かして前向きに米づくりに挑戦していく、そんな仲間が増えると米づくりはもっと楽しくなると思うんです」



●南坂さんのPOINT2
田植えを終えてから約1カ月は水回りの見回りを40分ずつ、朝と夕に毎日実施。温度管理を徹底するためにも欠かせません。



●南坂さんのPOINT3
水田の湧きを防ぎ、根張りをしっかりさせるために、稲わらは水入れ前に全て搬出します。



●南坂さんのPOINT4
「築き上げたブランドを守る」という思いで取り組む南坂さん。「期待に応える」という意気込みが全ての原点です。

DATA 南坂さんの基礎情報（令和元年産）

DATA1 | 土づくりと透排水性改善 (kg/10a)

| | |
|----------|-----------|
| 稲わらの処理方法 | 搬出 |
| 土壌改良資材 | 粒状ケイカル 30 |

DATA2 | 施肥量・施肥法 (kg/10a)

| | | | |
|----|-----|-----|------|
| 基肥 | 窒素 | リン酸 | カリウム |
| 全層 | 4.0 | 3.0 | 4.0 |
| 側条 | 4.0 | 3.0 | 4.0 |

※直近5カ年の基準品率94.5%（うち50%はタンパク値6.8%以下）。※育苗時に微生物資材「稲ファイター」を施用。

DATA3 | 作付面積 (ha)

| | |
|-------|-------|
| ゆめぴりか | おぼろづき |
| 9.1 | 0.4 |

DATA4 | 育苗・移植

| | | |
|------|----------------------|-------|
| 育苗形式 | 成苗ポット | |
| 移植時期 | 5/22 | |
| 栽植密度 | 畦幅×株間 (cm) | 33×14 |
| | m ² 当たり株数 | 22 |

No.08

増毛町 木谷 辰彦さん



良食味米へ、 地域で思いを一つに

「規模が小さい分、食味で勝負する」。留萌管内では、地域をあげて良食味米の生産に取り組んでいます。

”
稲をよく観察し、
手をかける

日本海沿いにあり、豊富な水産資源で知られる増毛町は、果樹と稲作など農業の町でもあります。その増毛町と南北に連なる留萌市、小平町からなるJA南るもい水稻部会では、食味を重視した取り組みで良質な米を安定的に出荷しています。2017年の「ゆめぴりか」コンテストでは留萌管内が最高金賞を受賞しました。

同部会の会長である木谷辰彦さんは「ゆめ



●木谷さんのPOINT1
育苗は、最初は乾燥させないよう、ある程度育ったら水分を絞ります。そして、ローラーを転がして苗を踏み、コシの強い苗をつくります。

“ 条件の悪い年も良質米を目指して ”

「ゆめぴりか」の全量を低タンパク米として出荷する年もあるなど、安定して質の高い米を生産しています。「南るもいは規模が小さい分、食味を向上させようと仲間と意見が一致し、共に取り組んできました」

米づくりに向く褐色低地土という恵まれた土地柄に加え、「やるべきことを、やるべき時期にやる」基本を徹底していると言う木谷さん。栽培の基本は、稲を「いじめる」こと。苗の段階ではある程度育ったら水分を減らし、土壌診断に基づいて収量とのバランスを考えながら肥料を極力少なくしています。また、苗の水分量の調整や水田の水管理は、稲の状態をよく観察し的確に行うことで、気候条件の悪い年でも評価される米を出荷する努力を続けています。

平成 30 年には基盤整備が入り、機械作業や管理もしやすくなりました。「北海道米の知名度がここまで上がったのも、全道の生産者の努力の結果です。これからも年 1 回しかとれない米を、大切に育てていきましょう」



●木谷さんの POINT2
低タンパクを目指す水田では、苗を密植し、分けつが少なくなるようにします。タンパク値が下がり、粒形もそろった米になります。



●木谷さんの POINT3
出穂期に至るまでの水管理は何より大切。その日の気温に合わせて量を調整しながら、朝早くから水を入れて水温を上げます。



●木谷さんの POINT4
出荷時に、JA の検査場に設置されている食味分析計から得られたタンパク値等の数値を毎回チェック。成果と課題を確認することで、良質米生産への意識づけにつながっています。

DATA 木谷さんの基礎情報 (令和元年産)

DATA1 | 土づくりと透排水性改善 (kg/10a)

| | |
|----------|-----------|
| 稲わらの処理方法 | 秋鋤込み |
| 土壌改良資材 | 粒状ケイカル 80 |

※乾きやすいほ場が多いため、心土破碎は実施していない。

DATA2 | 施肥量・施肥法 (kg/10a)

| 基肥 | 窒素 | リン酸 | カリウム |
|----|-----|-----|------|
| 全層 | 4.3 | 5.8 | 5.4 |
| 側条 | 3.6 | 1.6 | 0.5 |

※全層：BB 水稲 265。側条：BB 水稲側条 093。

DATA3 | 作付面積 (ha)

| | |
|-------|-------|
| ゆめぴりか | ななつぼし |
| 4.4 | 2.3 |

DATA4 | 育苗・移植

| | | |
|------|----------------------|---------|
| 育苗形式 | 中苗マット | |
| 移植時期 | 5/15 ~ 5/23 | |
| 栽植密度 | 畦幅×株間 (cm) | 33 × 12 |
| | m ² 当たり株数 | 25.3 |

No.09

愛別町 鉛口 裕二さん



当たり前のことを 真面目にやり続ける

米づくりには手間と時間がかかる。だからこそ真面目に、そして真剣に取り組むことを鉛口さんは決して忘れません。

「収量はますますだけど、全体的には70点くらいかな…」と令和元年を振り返る鉛口さん。和歌山県から愛別町に入植した稲作農家の5代目です。作付けしているのは「ななつぼし」「きらら397」のほか、10haで「ゆめぴりか」をつくっています。

現在は上川地区「ゆめぴりか」生産販売連絡協議会 副会長として、ブランド価値の向上に向けて尽力しています。

●鉛口さんの POINT1

水田や作物の様子をこまめに見る。自分の感覚を信じ、その年の気候に合わせて田起こしや田植えの時期を調整する。水田は早く乾かす。

“ 自分が食べておいしいと思う米をつくる ”

「ゆめぴりか」は、他の品種に比べ手間も時間もかかりますが、その分やりがいがあるそう。お手本としているのは、真面目に稲作に取り組んできた先代である父。その父の後を追って、真剣にお米と向き合っています。

鉛口さんは「ゆめぴりか」の魅力を「疲れた時には白いご飯が食べたくなるという、日本人のDNAを呼び起こしてくれる味だね」と表現します。この味を一人でも多くの方に知ってもらうためには、まずは自分が食べておいしいと思うお米をつくること。そのためにも、今まで培ってきた経験や自分の感覚を大切に、当たり前のことをコツコツと真面目に続けています。

「いいお米をつくることで、北海道米のイメージアップや消費者の信頼を得ることができ。道内の生産者がお互いに励まし合いながら、ブランド力の向上に向けて一緒に頑張っていけたらいいですね」と、「ゆめぴりか」をつくる仲間に向けエールを送ります。



●鉛口さんのPOINT2

理想の苗は「ずんぐりむっくり」。苗は過保護にしすぎず、ハウス内の温度を下げるなどして自然に近い状況をつくり、力強くたくましく育てます。



●鉛口さんのPOINT3

発芽ぞろえをしっかりします。種はクリーンな栽培を意識し、温湯消毒種子を使用。その後の水漬けの温度と時間の管理を徹底し発芽をそろえます。



●鉛口さんのPOINT4

条件や生育の悪いところを見つけ、原因を探り、改善する努力を積み重ねることが全体の底上げにつながります。

DATA 鉛口さんの基礎情報（令和元年産）

DATA1 | 土づくりと透排水性改善 (kg/10a)

| | |
|----------|-----------|
| 稲わらの処理方法 | 秋鋤込み |
| 土壌改良資材 | ミネダッシュ 60 |

※透排水性改善のため、溝切りを実施。

DATA2 | 施肥量・施肥法 (kg/10a)

| 基肥 | 窒素 | リン酸 | カリウム |
|----|-----|-----|------|
| 全層 | 5.0 | 7.0 | 5.0 |
| 側条 | 4.5 | 4.5 | 1.0 |

DATA3 | 作付面積 (ha)

| | | |
|-------|-------|--------|
| ゆめぴりか | ななつぼし | きらら397 |
| 10 | 24 | 5 |

DATA4 | 育苗・移植

| | | |
|------|----------------------|-------|
| 育苗形式 | 成苗 | |
| 移植時期 | 5/20～5/22 | |
| 栽植密度 | 畦幅×株間 (cm) | 33×13 |
| | m ² 当たり株数 | 24 |

No.10

旭川市 黄木 高善さん



受け継いだ技術を 基に、さらに前進

永山町稲作研究会では、ASIAGAP 団体認証取得などに積極的に取り組み、技術の向上に努めています。

”
先進事例を学び、
より良い米を
“

「ゆめぴりか」の一大産地である旭川市。市内東部に位置する永山町は、以前、上川農業試験場があった名残もあり、稲作農家が多い地域です。ここで若手の生産者を中心に結成された永山町稲作研究会の代表を務めるのが、黄木高善さん。研究会には25人が所属し、「より良い作物をつくりたい」という思いで活動しています。「ゆめぴりか」を生産する会員も多く、黄木さん自身も毎年安定的



●黄木さんの POINT1

永山町稲作研究会で、ASIAGAP 団体認証を取得。水田1枚1枚のデータを把握し、そのデータ分析に基づいて施肥設計をします。

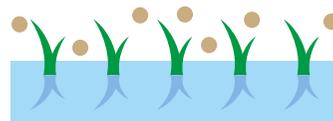


に基準品を出荷しています。JAの営農指導に基づいて施肥設計や水管理に取り組むことはもとより、関係団体の勉強会で情報を聞き、良い方法は取り入れ、「基準品をつくり、収量も上げる」ことを目指しています。

その永山町稲作研究会で2017年に実現させたのが、ASIAGAPの団体認証。取得にかかる手間や時間の負担は大きかったものの、それ以上に、栽培記録をデータ化したことに価値があったと言います。

「研究会のメンバーは後継者が多いのですが、以前は親の作業を見て感覚で受け継ぐしかなかった技術を、データで残して共有化できるようになりました。親たちが代々残してくれた技術が土台にあってこそ、自分たちが付け加えていけるものがあります」

データ化することで、より水田に合った施肥設計ができ、生産性も向上。若い生産者同士、「2020年は、東京オリンピック・パラリンピックに永山米を供給」を目標に、切磋琢磨しながら高い品質の米づくりに取り組んでいます。



●黄木さんの POINT2

基本的には Yes!clean の基準にのっとり、肥料を抑えた栽培を実行。低タンパク米の基準を目指しつつ、収量を上げる努力を続けています。



●黄木さんの POINT3

上川農業改良普及センターとの打ち合わせのもと、永山町全町で足並みをそろえ、無人ヘリで一気に農業散布。適期防除により病気や害虫を抑えています。



●黄木さんの POINT4

6月中旬から下旬に、ケイ酸質資材を散布。コストはかかりますが、タンパク値が下がるとともに、稲株が強くなります。

DATA 黄木さんの基礎情報（令和元年産）

DATA1 | 土づくりと透排水性改善 (kg/10a)

| | |
|----------|---------|
| 稲わらの処理方法 | 秋鋤込み |
| 土壌改良資材 | ミネカル 40 |

※透排水性改善のため、溝切りを実施。

DATA2 | 施肥量・施肥法 (kg/10a)

| 基肥 | 窒素 | リン酸 | カリウム |
|----|-----|-----|------|
| 全層 | 5.6 | 7.2 | 4.8 |
| 側条 | 2.8 | 2.8 | 2.8 |

DATA3 | 作付面積 (ha)

| | | |
|-------|-------|------|
| ゆめびりか | ほしのゆめ | えみまる |
| 16.6 | 3.5 | 2.7 |

DATA4 | 育苗・移植

| | | |
|------|----------------------|-------|
| 育苗形式 | 中苗マット | |
| 移植時期 | 5/15～5/26 | |
| 栽植密度 | 畦幅×株間 (cm) | 33×13 |
| | m ² 当たり株数 | 24 |

掲載生産地

-
- 増毛町
 - 共和町
 - 当別町
 - 森町
 - 愛別町
 - 旭川市
 - 深川市
 - 奈井江町
 - 栗山町
 - 平取町